

ホセア書 11章 12節-13章 16節 神を忘れた民

数日前、私はキリスト教牧師と称する牧師たちがイエスの神性と人間性を完全に否定する2つの異なる話を耳にしました。ある人は、イエスは「類まれな人間であった。だからといって、彼についての話をすべて文字通りに信じているわけではない」と言いました。もう一人は、聖書に記述されているような肉体の復活とイエスの埋葬さえも否定しました。この二人は、イエスが完全な神であり完全な人であることについて、私たちが信じていることと同じことを信じ、聖書の記述を信頼していると主張していた時期があったのです。このようなことはよくあることだとわかっていますが、神に仕え、神を崇拝することを始めた人が、崇拝していると主張する神を本質的に拒絶することがどうしてできるのでしょうか。御子なる神、イエス・キリストの本質を否定することは結局そう言うことなのです。その答えはイスラエルの国家の物語に見ることができます。ホセアの預言の時点で、彼らはもう既に自分たちの神から離れていました。彼らが偶像を礼拝することによって、霊的な姦淫を犯していたことはすでに見ました。先に述べた二人の人のように、それでもまだ真の神を礼拝していると信じていることさえ見ました。ホセア書 12章を始めるにあたり、預言者ホセアは彼らに自分たちの歴史を思い起こさせようとします。そして彼は、神御自身がイスラエルと改名させたアブラハムの息子ヤコブから始まった国の始まりに遡ります。しかし、彼らがどこから来たのかを思い起こさせることは、北のイスラエルと南のユダの双方に等しく適用することを理解させることから始まります。

12章と13章では、ホセアは神学的な重要点を指摘をしているのであって、単に歴史を繰り返し語ろうとしているわけではないので、時系列順に話を進めてはいません。同じように、私はこれらの聖書箇所を順番に見ていくつもりはなく、ホセアが何を伝えようとしていたのか、そしてそれが現代の私たちにどのように適用するかを示すことができればと思いながら進めていきます。実際は11章、12節から始めて、12章2節まで読み進みましょう。ホセア書 11章 12節 **わたしは、エフライムの偽りと、イスラエルの家の欺きで囲まれている。しかしユダは、なお神とともに歩み、聖なる方に対して忠実である。**ホセア書 12章 1節 **エフライムは風を飼い、一日中、東風の後を追う。重ねるのは虚偽と暴行。アッシリアと契約を結び、エジプトに油を送る。**

第12章は非常に難解であり、どの注解書も異なる視点を取っています。ですから、私はイスラエルの歴史に焦点を絞りこだわっていきます。それだけははっきりしています。彼は最初にユダは神と共に歩んでいると言っていますが、その後、彼がエフライムに何を伝えてもユダも含まれていますので、この時点で彼が両方の国、イスラエルのすべての子供たちに語っていることは明らかです。そして彼は、彼らの始まりを思い出させます。3-4節を見てください。

3 ヤコブは母の胎で兄のかかとをつかみ、その力で神と争った。4 御使いと格闘して勝ったが、泣いてこれに願った。ベテルでは神に出会い、神はそこで彼に語りかけた。彼は、ユダとイスラエルの双方の民に、彼らの歴史がホセアの時代のように罪から始まっただけでなく、神に対する真の知識からも始まったことを思い出させているのです。ヤコブの名は欺く者を意味します。もちろん、赤子であった彼にその行為の責任は問えませんが、ある意味で、彼は兄に対して罪を犯すことから人生を始めたのです。しかしその後、兄に対してのその行動と兄から長子の相続権と祝福を奪ったことは、彼の側としては非常に計画的な行為でした。しかし、その罪人ヤコブは、ベテルで神、あるいは神の御使いに出会い、この主の御使い（おそらく旧約聖書に登場するイエス御自身）と一晩中格闘した後、ヤコブはイスラエルという新しい名を持つ男に変わって立ち去りました。その欺く者は「神と格闘する」者となり、神との格闘を通して神に頼ることを学びました。そして、彼の息子たちを通して、イスラエルの国となった12部族が生まれました。ホセアは民に、彼らが共有しているこの歴史を思い出させています。そしてその時、ヤコブが出会い、格闘し、その後従った神が誰であるかを思い出させます。ホセア書 12章 5節は言います。**5 主は万軍の神。その呼び名は主。**それは彼らの祖先が崇拝してきた神でした。ヤコブというこの男の息子たちから彼らを国民にした神でした。この欺く者を神に完全に服従させるために、家族を与え、ヤコブではなくイスラエルになる準備をさせるために、家族の家から連れ去らなければならなかった神でもあったのでした。この記述を見る 12節に進みましょう。 **12 ヤコ**

ブはアラムの地に逃げて行き、イスラエルは妻を迎えるために働いた。妻を迎えるために羊の番をした。

創世記を覚えておられると思いますが、ヤコブは叔父のラバンの家に行き、娘のラケルと結婚するために7年間働きましたが、代わりに姉のレアを与えられました。そこで、彼は意中の最愛の女性であるラケルと結婚するためにさらに7年間働きました。神は、御自身を万軍の主なる神と真に認め服従する立ち位置までヤコブを連れて行くために、そのようなことをなさったのでした。この万軍の主という名前は、軍隊の神を意味するヘブライ語の名前です。神は、この地上で組織できるどんな軍隊よりも強力な天の軍勢を支配されているのです。全能で主権者であるこの神は、ヤコブとこのイスラエルの国民を御自身の選ばれた民として定められた方です。しかし、彼らを御自身の民とするためにされたことは、ヤコブだけでは終わりませんでした。創世記の最後で、主人公がヤコブから、死んだと思われていた息子のヨセフに移るのを覚えていらっしゃるでしょう。ヨセフは、父ヤコブと家族を含む兄弟全員をエジプトに移住させることによって飢饉から救います。エジプトでは、その国民が成長し始めます。そして、なんと幾千、幾百万もの国民に成長しました。そして13節には、神が御自身の民がその土地に住むようになるためになさった次の主要な行為が記されています。ホセア書12:13は言います。**13 主は一人の預言者によって、イスラエルをエジプトから連れ上り、一人の預言者によって、これを守られた。**これはもちろん、イスラエルの民をエジプトから導き出したモーセのことです。ですから神は、国がなかったところに国を造られたのでした。国民が大きくなり続けるにつれて、神は彼らに神の民として従順であり続けるようにメッセージを送り続けました。

12章10節は言います。**10 わたしは預言者たちに語ってきた。わたしが多くの幻を示し、預言者たちによってたとえを示したのだ。**神は彼らを決して忘れていませんでした。彼らがエジプトにいたとき、神はすでに彼らを解放する御計画をお持ちでした。

彼らが大きくなりながら、さまざまな王たち、敬虔な者もいましたが、多くは邪悪な者、に導かれていたとき、神は彼らに御声を聴かせずにはおられませんでした。

ホセアは、神が自分たちのためにしてくださったことをすべて語り終えた後、自分たちの神に立ち返るよう呼びかけます。その尊い御名と大いなる権威を、民は思い知らされたのでした。

6節に戻ってください。**6 あなたは、あなたの神に立ち返り、誠実と公正を守り、絶えずあなたの神を待ち望め。**神がなさったすべてのことの目的は、彼らが神との正しい関係にあるためだったのです。ホセアは、この関係を**"絶えずあなたの神を待ち望め。"**という言葉で表現しています。

このように待つことは、神に完全に希望を見出すことでもあるのです。神は彼らのすべてでありたいと願っておられます。人生のすべてにおいて神が必要であることを悟らせたいのです。問題は、彼らが神のことを忘れてしまったことです。なぜなら、彼らは神を必要としていないと考えているからです。8節を見てください。**8 エフライムは言った。「確かに私は富んでいる。私には力がある。私のすべての勤労の実があれば、私のうちに、罪となる不義は見つからない。」**彼らの態度は、私を見てください。私には自分で築いた富があります、というものでした。

イスラエルの人々にとって、これは自分たちが悪い人ではないこと、罪人ではないことをはっきりと示していました。これは現代の多くの人々とよく似ています。彼らはこう言います。どうして私が罪人だと言えるのですか？私は法律や社会のルールに反するような悪いことは一切していません。「実際、私はいい家に住み、いい仕事に就き、いい家庭を持っています。そして、これらすべてを自分の努力で得ました。なぜ私に神が必要でしょうか。クリスチャンは同じ間違いを犯せるのでしょうか。もちろんです。人々が何を言っていたのか、少し違う角度から考えてみましょう。私が持っているこの富を見てください。それは私が神の恵みを受け、罪を犯さず、神の祝福の下に生きていることを示しているに違いありません。これが、ここ日本も含め、世界中の多くの教会で定着しているご利益宗教的な繁栄の福音のメッセージです。富を追い求めることにキリスト教的な見せかけや覆いをかぶせても、すでに富を築いているので神を必要としないと主張する人々と比べて、より偶像崇拜的ではないというわけではありません。この書で神がイスラエルの民に約束している罰はすべて、彼らに神を思い出させ、立ち返らせるためのものです。そして再び、ここで彼らの注意を引くために何をなさろうとしているのかを語っておられます。この場合、主はそれを民の歴史に結びつけています。

12章の9節を見てください。**9 しかしわたしは、エジプトの地にいたときから、あなたの神、主である。例祭の日のように、再びあなたを天幕に住まわせる。**これは、神御自身が成し遂げられた民のエジプトからの脱出を記念して神が設けられた仮庵の祭りのことです。ヘブライ語ではズコットと呼ばれて、ユダヤ人は毎年、神が彼らを約束の地に導き、恒久的な住居と都市を築き上げる前に、エジプトから逃れてきた難民だったことを思い出すために、屋外の天幕やシェルターで7日間生活することになっていました。それは、かつて自分たちが何も持たず、持っているものはすべて神から与えられたものであることを思い出させるためでした。裕福になり、持っているものに満足し、神と律法を忘れてしまったために、彼らは毎年この命令に従うことはなくなりました。ですから、神はこう言われます。"私は、あなたたちの家や、あなたたちが私を思い出し、私に従順であることを妨げている大切なものすべてを取り上げて、あなたたちを元の立場に強制的に引き戻そう"と。ちょうどヤコブに御自身を完全に認めさせるために神がヤコブを彼の土地から移動させたように。神が彼らの必要を満たす神であることを示すために神がヤコブの家族をエジプトに移されたように。ちょうど、神が大きくなったイスラエル民族をエジプトから移動させ、彼らを解放し、新たな祝福の場所への導き手となることを示されたように。神は今、再びイスラエルの民に彼らの神を思い出させるために、彼らをこの地から追い出うと言われています。そして、その退去は痛みを伴います。そして13章に入ると、彼らが信頼しているものが悲痛にも破壊されるのを見ます。。

2-3節を見てください。**2 今、彼らは罪を重ね、自分のために銀で鑄物の像を造り、自分の考えで偶像を造った。これはみな、職人のわざ。彼らはこれについて言う。『人を献げる者たちは、子牛に口づけせよ』と。3 それゆえ、彼らは朝もやのように、朝早く消え去る露のようになる。打ち場から吹き散らされる籾殻のように、また、穴から出る煙のようになる。**彼らの偶像崇拜は、ある種の人身御供を伴うほどひどいものでした。神は彼らの拒絶のために彼らとその偶像を滅ぼし、彼らに何も残しませんでした。彼らが永遠に続くと思っている彼らの大都市や富や権力は、あっと言う間に消え去る朝露や煙のようなものです。そして13章11節に進むと、王についてこう述べています。**11 わたしは、怒ってあなたに王を与え、また憤ってこれを奪い取る。**神は彼らの偶像だけでなく、指導者も取り去り、住む家も、暮らす街も、導く者もない状態にされます。彼らがエジプトにいた頃や約束の地にたどり着く前と同じです。なぜこのようなことが起こるのでしょうか？それは、この神は彼らをこの地に導びかれ、彼らの歴史を起こされたその神であることを、彼らが再認識するためです。4節 **4 しかしわたしは、エジプトの地にいたときから、あなたの神、主である。あなたはわたしのほかに神を知らない。わたしのほかに救う者はいない。**神はすでに彼らに、御自分の名前が何であるか、そして彼らを民とした方が誰であるかを思い出させました。12章5節を覚えていますか。**5 主は万軍の神。その呼び名は主。**この人々を忠実に繁栄させたこの愛に満ちた神は、今、彼らの注意を引こうとされたのでした。彼らは不誠実になっていました。彼らは自分たちの歴史を知っていましたが、その歴史を起こされた神を忘れていたのです。神は手遅れになる前に彼らを救うことを望まれました。この13章の最後の一節は、神の愛の大きさと、彼らが神を思い出せなかった場合の高い代償を示しています。ホセア書13章14節は言います。**14 わたしはよみの力から彼らを贖い出し、死から彼らを贖う。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。よみよ、おまえの針はどこにあるのか。あわれみはわたしの目から隠されている。**

この約束は、彼らの罪のために彼らに起こる恐ろしいことの預言の間に挟まれています。しかし、神が御自身が誰であり、彼らのために何をしてくださったかを彼らに思い出させようとする目的は、これから起こるさらに大きな滅びから彼らを救うためなのです。その滅びとは、旧約聖書では陰府と呼ばれ、後に地獄と呼ばれるようになった場所での永遠の死なのです。神は歴史を通して、罪深いヤコブを贖い、イスラエルをエジプトの奴隷から贖い、そして今、もし彼らが神のもとに立ち返るなら、最初の間であるアダムの罪のためにすべての人にかかっている死の呪いそのものから究極的な贖いを与えることが御出来になり、また御与えくださることを示されたのでした。**ローマ人への手紙 5章 12節**はそれを述べています。**12 こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に――**さて、私たちはみな肉体的に死ぬことは知って

いますが、ここで語られている死は地獄での霊的な死です。地獄は、私たちが神に対して犯した罪を償うための、永遠の意識的苦痛を受ける場所として描写されています。イエスは**ルカの福音書 16章 23節**で地獄を体験する人についてこのように話されています。**23 金持ちが、よみで苦しみながら目を上げると、遠くにアブラハムと、その懐にいるラザロが見えた。**

彼らが神を忘れてしまったために、神がこれらの人々に起こることをここで説明されたすべては、彼らが永遠に経験する苦しみの始まりにすぎません。神は、彼らが神を思い出し、神のもとに立ち返ることで、その永遠の終わりから彼らを救いたいと望まれています。そして14節は、神が当時の民のために、そして現在の私たちのために究極の救いを与えてくださることを再び指し示しています。**コリント人への手紙 第一 15章 55-57節**は部分的にホセア書 13章 14節を引用して、こう言っています。**「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」 56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。 57 しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。**

イエス・キリストは死の唯一の解決策です。イエス・キリストによって、死は永遠の罰、永遠の死への入り口ではなく、永遠のいのちの始まりとなるのです。罪が何の力も持たないところで、私たちは、私たちが創造してくださった御方を忠実に愛し、仕えるのです。私たちの創造主である天の父は、私たちがどれほど愛し、祝福したいと望んでおられるかを、想像を絶する方法で永遠に示してくださるのです。私たちがそれに値するからではなく、**ホセア 13章 4節**が言うように、**4 しかしわたしは、エジプトの地にいたときから、あなたの神、主である。あなたはわたしのほかに神を知らない。わたしのほかに救う者はいない。**

神は私たちが罪と死の呪いから解放し、私たちが忘れていた神のもとに回復させるために十字架上で死なれた救い主、神御自身であられるイエス・キリストをお与えになります。では、冒頭の話に戻りますが、神に仕えていると主張する人々が、なぜ神を拒絶することになってしまうのでしょうか？彼らは、神が過去にどのように働かれたかを思い出せずに、神を忘れてしまうのです。しかし神は、御子イエス・キリストによる恵みによって救いを与え、神を忘れた人々を追い求めておられます。あなたはイエス・キリストを主として救い主として受け入れましたか？そうすれば、**ホセア 13章 14節**の言葉を胸に、自信を持って生と死の両方に立ち向かうことができます。**死よ、おまえのとげはどこにあるのか。よみよ、おまえの針はどこにあるのか。**

主の晩餐を共に与るたびに、私たちは主の死と復活を記念するのです。もしあなたがイエス・キリストを受け入れておられ、バプテスマにおいて主に従順であったなら、今日この聖餐式にぜひ参加なさるようお招きします。イエス・キリストを受け入れていないなら、参加しないでください。そして親御さんは、準備ができていない子供たちを参加させないことによって、この聖餐式の大切さを教えてあげてください。私が祈った後、礼拝堂の四隅で執事たちによってパンと杯が配られます。そして共に聖餐に与ります。祈りましょう。

Hosea 11:12-13:16 Forgetting their God

A few days ago, I came across two different stories where Pastors who claimed to be Christian pastors denied the full divinity and humanity of Jesus. One said that Jesus was a “uniquely extraordinary human being. But that does not mean I take every story about him literally.” The other denied a physical resurrection and even the burial of Jesus like the Bible describes. Both of these men at one time claimed to believe the same things about Jesus being fully God and fully man that we believe and trust in the Bible’s account. I know this type of thing is common, but how can a person who starts off serving and worshipping God end up essentially rejecting the God they claim to worship, which is happening if you deny the nature of God the Son, Jesus Christ?

The answer is seen in the story of the nation of Israel. By the time of Hosea’s prophecies, they had left their God. We have already seen that they were committing spiritual adultery by worshipping idols. In some cases, they even believed they were still worshipping the true God, just as the two men I mentioned earlier. As we begin chapter 12 of Hosea, the prophet Hosea is going to remind them of their history. And he goes all the way back to the beginning of the nation with Abraham’s son Jacob, whose name is changed into Israel by God himself. But this reminder of where they came from starts by ensuring that both Israel in the North and Judah in the South understand that this applies equally to them both. In chapter 12 and 13, Hosea does not tell the stories in chronological order because he is making theological points, not trying to simply repeat history. In similar fashion, I am not going to go through these verses in order, but will be going through in such a way as to hopefully demonstrate what Hosea was trying to convey and how it applies to us today. But we will actually start with chapter 11, verse 12 and read through chapter 12, verse 2. **11:12 Ephraim has surrounded me with lies, and the house of Israel with deceit, but Judah still walks with God and is faithful to the Holy One. 12:1 Ephraim feeds on the wind and pursues the east wind all day long; they multiply falsehood and violence; they make a covenant with Assyria, and oil is carried to Egypt. ²The Lord has an indictment against Judah and will punish Jacob according to his ways; he will repay him according to his deeds.** Chapter 12 is very difficult to understand and every commentary takes a different perspective, so I am going to stick with the main focus of the history of Israel. That much is clear. While at first he says Judah is walking with God, he then includes Judah in on whatever he says to Ephraim so it is clear he is talking to both nations, all the children of Israel at this point. And he reminds them of their beginning. Look at verses **3-4. ³In the womb he took his brother by the heel, and in his manhood he strove with God. ⁴He strove with the angel and prevailed; he wept and sought his favor. He met God at Bethel, and there God spoke with us—** He is reminding the people of Israel, both Judah and Israel, that their history began with both sin as in Hosea’s day, but also with true knowledge of God. Jacob’s name meant deceiver. In a certain sense, he started his life by sinfully acting against his older brother, although as a baby he was not responsible for that action. But later that action against his brother and stealing his birthright and blessing from him would be a very deliberate act on his part. But that sinner Jacob met God or at least an angel of God at Bethel and after an all night wrestling match with this angel of the Lord, possibly an Old Testament appearance of Jesus himself, Jacob walked away a changed man with a new name, Israel. The Deceiver became one who “wrestles with God” and through that wrestling with God, he learned to depend on him. And through his sons came the 12 tribes that became the nation of Israel. Hosea is reminding the people of this history that they share. And at that point, he reminds them just who this God is that Jacob met and wrestled with and followed after that.

Verse 5 of Hosea 12 says, ⁵ **the Lord, the God of hosts, the Lord is his memorial name:** This was the God who their ancestors had worshipped. This was the God who had made them into a nation from the sons of this man Jacob. This was also the God who in order to bring this deceiver to this place of complete submission to God had to take him away from his family's home in order to give him a family and make him prepared to become Israel rather than Jacob. Drop down to verse 12 where we see this. ¹² **Jacob fled to the land of Aram; there Israel served for a wife, and for a wife he guarded sheep.** You may remember from Genesis that Jacob went to his Uncle Laban's house where he worked 7 years to marry his daughter Rachel, but then was given Leah her sister instead. So, then he worked an additional 7 years to marry his true love Rachel. God did all that to bring Jacob to a place of submission to him, a place where he truly recognized his God, the Lord God of Hosts. That name, God of Hosts is a Hebrew name meaning God of the armies. God rules over a Heavenly host that is more powerful than any army that can be raised on this earth. This God who is all powerful and sovereign is the one who chose Jacob and this nation of Israel to be his own chosen people. But what he did to make them into his people did not end with Jacob. You may remember that at the end of Genesis, the main character shifts from Jacob to his son he presumes is dead, Joseph. Joseph saves his family, including Jacob his father and all his brothers from the famine by moving them all to Egypt. In Egypt, the nation begins to grow. And grow it did...into thousands and possibly millions of people. Then verse 13 tells us about the next major act God took on behalf of his people which led to them being in this land. **Hosea 12:13 says, ¹³ By a prophet the Lord brought Israel up from Egypt, and by a prophet he was guarded.** This is of course, Moses, who led the people of Israel out of Egypt. So God made them a nation, where there was no nation. Then God brought that nation out of slavery and gave them land to call their own. Still that wasn't all he did. As they continued to grow, he kept sending messages to keep them committed to following him as their God. Verse 10 of chapter 12 says, ¹⁰ **I spoke to the prophets; it was I who multiplied visions, and through the prophets gave parables.** God never forgot about them! When they were in Egypt, God had a plan to free them. When they were growing and being led by kings, some who were good, but many others who were ungodly, God did not leave them without his voice.

As a result of recounting everything that God has done for them, Hosea then calls them to return to their God, whose exact name and authority they have been reminded of. Look back at **verse 6. ⁶ "So you, by the help of your God, return, hold fast to love and justice, and wait continually for your God."** The point of everything that God had done was so they would be in a relationship with him. Hosea frames this relationship in this term of **"wait continually for your God."** This waiting could also be finding their hope completely in God. God wants to be everything to them. He wants them to realize that they need him for everything in their lives. The problem is that they forgot about God, because they think they don't need him. Look at **verse 8. ⁸ Ephraim has said, "Ah, but I am rich; I have found wealth for myself; in all my labors they cannot find in me iniquity or sin."** Their attitude was look at me. I have wealth that I have created on my own. To the people of Israel, this clearly showed that they were not bad people...they were not sinners. **This sounds a lot like many people today. They say, "How can you tell me I'm a sinner? I don't do bad things that are against the law or society's rules." "In fact, I have a nice house, a good job, a good family and I got all those things by my own effort." "Why do I need God?" Can Christians do the same thing? Yes, we can! Think about what the people were saying in a little different way. "Look at this wealth I have. It must show that I have God's favor and don't have sin and am living under his blessing."** This is the message of the prosperity gospel that has taken hold in so many churches across this world, including some here in Japan. Putting a Christian veneer or covering on the

pursuit of wealth does not make it any less idolatry than those who claim they don't need God because of their wealth.

All the punishment that God has been promising to the people of Israel in this book are to get them to remember him. And again he says what he is going to do to get their attention here again. In this case he ties it into their history. Look at verse 9 this time of chapter 12. ⁹ I am the Lord your God from the land of Egypt; I will again make you dwell in tents, as in the days of the appointed feast. This is referring to the feast of tabernacles or booths that God established commemorating their escape from Egypt that God himself brought about. The Hebrew word for this is Sukkot, and each year the Jews were supposed to live for 7 days in an outdoor booth or shelter that they would build to remember that once they were refugees escaping from Egypt before God brought them into the promised land to build permanent homes and cities. It was supposed to cause them to remember that they once had nothing, and everything they had came from their God. Because of their wealth, and their contentment with what they had and with that their forgetting of God and his law, they no longer followed this command every year. So, God is saying, "I will force you back into this position by taking away your homes and all the things that you value that are keeping you from remembering and obeying me."

Just as God moved Jacob out of his land in order to finally get him to acknowledge him fully. Just as God moved Jacob's family to Egypt to show them that he would be their God who would provide for their needs. Just as God moved the expanded nation of Israel out of Egypt to deliver them and show them that he would be their deliverer and guide to a new place of blessing. God now says that he will remove the people of Israel out of this land to once again cause them to remember their God. And that removal will be painful. And as we enter chapter 13, we see that painful destruction of the things they trust in. Look at verses 2-3 ² And now they sin more and more, and make for themselves metal images, idols skillfully made of their silver, all of them the work of craftsmen. It is said of them, "Those who offer human sacrifice kiss calves!" ³ Therefore they shall be like the morning mist or like the dew that goes early away, like the chaff that swirls from the threshing floor or like smoke from a window. Their idol worship was so bad that it had even involved human sacrifice of some sort. God would destroy them and their idols for their rejection and leave them with nothing. Their great cities and wealth and power that they think will go on forever will be like the morning dew that disappears or a puff of smoke. Then dropping down to verse 11 of chapter 13, he says of the king. ¹¹ I gave you a king in my anger, and I took him away in my wrath. God would remove not only their idols, but their leadership, and leave them homeless, cityless, and leaderless. The same as they were in Egypt and before coming into the promised land. Why is all this happening? So that they will recognize again that this is the same God that caused their history to happen that led them into this land. Verse 4 says, ⁴ But I am the Lord your God from the land of Egypt; you know no God but me, and besides me there is no savior. God has already reminded them of what his name is, and of who he is who made them into a people. Remember chapter 12:5 ⁵ the Lord, the God of hosts, the Lord is his memorial name: This loving God who faithfully prospered these people, now wanted to get their attention. They had become unfaithful, and while they knew their history, they had forgotten their God that caused that history. He wanted to save them before it was too late. The last verse we will look at here in chapter 13 shows us the extent of God's love, and the high stakes for them should they fail to remember their God. Hosea 13:14 says, ¹⁴ I shall ransom them from the power of Sheol; I shall redeem them from Death. O Death, where are your plagues? O Sheol, where is your sting? Compassion is hidden from my eyes. This promise is sandwiched between more prophesy of horrible things that will happen to them for their sin. But God's whole purpose of trying to remind them of who he is

and what he has done for them is so that he can save them from an even greater destruction that is coming. That destruction is eternal death in a place that the Old Testament here refers to as Sheol, later coming to be known as hell. God demonstrated through history that he redeemed sinful Jacob, that he redeemed Israel from Egyptian slavery, and now if they will return to him, he can and will provide ultimate redemption from the curse of death itself that is on everyone because of the first human, Adam's, sin. [Romans 5:12](#) tells us this. [12 Therefore, just as sin came into the world through one man \[Adam\], and death through sin, and so death spread to all men because all sinned—](#) Now, we know that we all physically die, but the death being talked about here is a spiritual death in hell. Hell is described as a place of torment, a place of eternal conscious torment to pay for the sin that we have committed against God. Jesus talks about a man who experiences hell in [Luke 16:23](#). [It says, 23 and in Hades \[or hell\], being in torment...](#) Everything that God has described that will happen to these people because they have forgotten their God is just the beginning of the suffering they will experience in eternity. God wants to save them from that eternal end by causing them to remember and return to him. And verse 14 points us again to the way that God will provide ultimate salvation for his people then and us now. [1 Corinthians 15:55-57](#) partially quotes Hosea 13:14 and says, [“O death, where is your victory? O death, where is your sting?”](#) [56 The sting of death is sin, and the power of sin is the law. 57 But thanks be to God, who gives us the victory through our Lord Jesus Christ.](#) Jesus Christ is the solution to death. With Jesus Christ, death is not the portal to eternal punishment, eternal death, but the beginning of eternal life. Where sin has no power, and we will faithfully love and serve the one who Created us. And where our Creator, our Heavenly Father will demonstrate to us in inconceivable ways for eternity just how much he loves us and wants to bless us. Not because we deserve it, but because as Hosea 13:4 says, [But I am the Lord your God from the land of Egypt; you know no God but me, and besides me there is no savior.](#) God provides the Savior, God himself, Jesus Christ who died on a cross to free us from our sin and curse of death and restore us to the God that we have forgotten about. So, back to where I began, how can those who claim to serve God end up rejecting him? They forget their God by failing to see how he worked in the past. But God is pursuing those who have forgotten him by offering salvation by his grace through his son, Jesus Christ. Have you accepted Jesus Christ as your Lord and Savior, so you can confidently face both life and death with the words of Hosea 13:14, [O Death, where are your plagues? O Sheol, where is your sting?](#) It is his death and resurrection we remember each time we share in the Lord's Supper. And if you have accepted Jesus Christ and been obedient to him in baptism, then I invite you to join us in this meal today. If you have not accepted Jesus Christ, then I would ask you not to participate. And for parents, you teach your children the importance of this sacrament by not letting them participate if they are not ready. After I pray the elements will be served by the Deacons from the 4 corners of the sanctuary. And then we will eat and drink together. Let's pray.